京橋の印刷

12月1日1995・No.93

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1－16－8
日本印刷会館3F　電話 3552-1855
FAX 3297-3790

発行人
荒川龍治

寄付とボランティア

副支部長　石井精二郎

昨年の夏、私の菩提寺で「本堂の全面改築と客殿の新築」計画が持ちあがり、約四〇〇軒の檀家に対し総額三億円の寄付金の要請がなされた。つい先頃その中間報告がされたが、目標額の九〇％が確約されたと言う。〝ホント、皆な、凄いな〟と言うのが感想である。

国語辞典で「寄付」を引くと「公共事業や寺社などに金銭・物品を無償で提供すること。」とあるが、宗教法人、医療法人、学校法人などに寄付しても免税にならない場合がままあり、寄付された法人は税の面で優遇されていて矛盾を感じたりするが、会社法人とは違い社会的使命を帯びているのだから、前出の如く〝無償で提供〟するのだからゴチャゴチャ言ってはいけないのだろう。

阪神大震災の義援金などは大変な災害だっただけに、日本国中素直な気持で沢山の善意が提供できたのだろう。

一方、ボランティアは現代用語の基礎知識によると、「社会をよりよくしていくため、自分の技能と時間を自主的に無報酬で提供する人達を言い、多くは本業をもっている」とあるが、これこそいろいろなボランティア活動がある。

日常無意識に行っている小さなものから、国際的に貢献するような派手な活動もある。先の湾岸戦争のとき〝日本はお金は出すが身体は使わない〟との批判を浴びたが、どちらかと言うとボランティア活動は苦手なようだ。しかし最近は若い人達を中心に活発化しており、阪神大震災の直後など大勢の若いボランティアが活動されたことは記憶に新しい。

いずれにしても寄付行為は〝見返りを求めない純真な気持でカネ（モノ）を提供〟しなければ意味がないし、ボランティア活動は〝自己の労力を惜気もなく提供〟することだが、それをいかに継続させることができるかが一番肝心なのではなかろうか。日本人は飽きっぽいと言われないためにも。

永年勤続従業員表彰式

於・中央会館七階

隔年に開催される京橋支部の永年勤続従業員表彰式が、10月6日(金)、午後6時から中央会館で、中島副支部長の司会にて行われました。

まず石井副支部長の簡単な開会のことばの後、荒川支部長が次のように挨拶しました。

「只今ご紹介されました京橋支部の支部長を仰せつかっています荒川でございます。本日は東印工組京橋支部の永年勤続従業員表彰を受彰される皆様、今年度は113名の方々が受彰されます。心からお祝いを申し上げます。お目出度うございます。そして何かとご多忙の折からご来賓の皆様も本席に出席戴きまして厚く御礼申し上げます。さて我々の業界、そして世の中全体が何か多事多難でございます。政治・経済の中でも、内外を問わず非常に流動的で不安定で、旦つ不透明な時代が進んでいるように思われます。

我国に於ては価格破壊が進行、非常に長い不況が続いておりまして、各位に於かれても大変、ご苦労のある事と思います。当業界もその中にあって価格が低迷する中、原材料の紙の値上げに対して、昨日製紙メーカーの一方的な用紙値上げに対する、決起大会とデモ行進を日比谷公園に於て行い、値上げに抗議する姿勢を示しました。正に野村理事長がいう、守りから攻めの組合活動を通して、我々の業界を何とか立直らせる行動の一つの表われと思います。しかし、大きな流れの中では技術革新は、日々激しく進んでいます。その中にあって今日、ここ迄、5年、10年、15年という永い間、お勤めになっておられる方は、本当に尊敬申し上げる次第であります。正に厳しい、今迄に例をみない競争であるといっても過言ではない程の変革を来たしています。その中にあって何がこれを支えていくのか、この技術革新にどのように我々は対応していくのか、コンピューターを始め種々な機器が我々の中に取り込まれつつあります。しかしこれを運用していくのは、皆様方の持っている心ではないかと思います。心という字を広辞苑で引きますと、最初に出て来るのは意志、それから感情、そして心、この三つの総体であると書いてあります。その他根本であるとか基礎であると、そういうものを総称して、心があるわけで皆様も情熱を持って、技術革新に取組む姿勢とそれに対する知識を積み重ねていく、そしてそれを運用するという強い意志があってこそ、新しい技術というものが我々の印刷業の中に根付いて、新しい時代を支えていくのではないかと思います。本年は戦後50年に当ります。1995年です、振り返って50年前、1945年、この間に於ける50年間というのは、経済不況だけみても、鍋底景気だとか、オイルショックだとか、今度はバブル崩壊、こう顧りみますと、この不況を乗り越えたのは何かというと、やはり我々日本人の知恵があったから、不況を克服して来たのじゃないかと、やはり基本にあったのは心じゃないかと私は思っています。逆に戦後50年と盛んに言われますけれど、その前の50年1895年、まだ19世紀でございます。明治33年です。その後の明治38年に日露戦争があり、大国に勝利する位の力を持ち、それを支えたのは、我々先人のやはり強い心と知恵と弛まざる国家を思う気持

が、大国ロシアに打勝つまでにして来たわけです。

こういう事を思えば我々はこの多事多難な時代を乗り切る事は、まだまだ余力があるのではないかと思います。しかし技術革新もプリプレスの段階から今年のドルツパ展とか、アイガス展に見られるように、プレスの中にもデジタルの波が確実に押し寄せています。こういうものをどういう様に取り込んでいくか、付加価値を付けて利益を生み、我々の印刷業を確固たるものにしていくか、そういうものはやはり心ではないかと思うのであります。もう21世紀までは、あと5年、もう1年足せば21世紀を迎える時に日本の、いや世界の構造というものはどうなっているのかという事は、まだまだ不透明ですし、我々の産業基盤というものはどういう風に変るのか判りません。しかしやはり心を中心とした知恵を持ってその技術と修得して、皆様は健康な心身をもって、正に私が日頃申してます、心技体をもって新しい21世紀を皆様の力で支えてゆきたいと願っております。どうぞ今後共、健康に注意されて、正に心、言い換えれば芯であります、各企業の中心となり核心となり、その基礎になって戴いて、益々我々業界に止どまらず、日本の産業のトップを走る意気込みで貢献をし、又、ご活躍を祈念申し上げます。

皆様のご健勝とご活躍と各企業の繁栄を祈念致しまして、私の挨拶と致します。どうも有難うございました。」（拍手）

司会の中島副支部長が、

「今日の受彰者の方は113名もおられますので、各受彰者のお名前を読み上げるべきですが、何分時間が掛かりますので、5年、10年、15年、各1名ずつの方に代表して表彰させて戴きます。」と述べた後、まず5年を代表して、ミズノブリテック㈱堀内秀和様が登壇、荒川支部長より表彰状が読み上げられて、記念品と共に手渡されました。続いて10年を代表して、高千穂印刷㈱佐藤美由紀様が同じく表彰されました。次に15年を代表して、㈱久栄社、杉崎栄一様が同じく表彰されて、それぞれ大きな拍手を受けられました。表彰式はこれで終了し、続いて来賓の挨拶があり、東印工組常務理事、篠倉正信殿が次のように祝辞を述べられました。

「ご紹介戴きました組合本部で労務を担当しています篠倉でございます。本日はご臨席の来賓方を始め、多数の方々に永年勤務表彰式にご出席戴き受彰者の皆様には心からお慶びを申し上げます。一寸、固い話になって恐縮なのですが、太平洋戦争が終りまして、戦後日本の経済の中で、雇用関係のルール、システムがご承知の三つの大きな柱に支えられて参りました。年功序列、二番目が企業内組合、そして三番目が終身雇用制という、この三つの柱に支えられてきました。年功序列賃金というのはご存知のとおり、年をとる毎に、勤続が長くなるに従って、給料が上っていくというシステムです。そして企業内組合は各企業の中で、労働組合が出来、それが春闘等で統一的なベースアップをやっていくという欧米にはない日本のシステムです。それから終身雇用というのは、ご存知のように、余程の事がない限り、定年迄首を切られる事がないという、こういう三つの柱に支えられて、雇用が安定し、それなりの愛社精神というのが生まれ、それによって日本の高度成長が達成されるという要因の一つになっている訳です。しかし、最近はこれらの条件が崩れて参りました。年功序列賃金も、最近は年齢に関係なく、能力によって決まる、年俸制に、いわばプロ野球の選手のように、能力のある者は、一年間いくらという事で決まって来る。それから労働組合への加入率というのは、恐らく、企業数の⅓を切っているのじゃないかという状況になっている。それから終身雇用についても、どんどん職を変っていくと、まあ米国なんかでは職を変る毎に、却って〝ハク〟が付くという事ですね。

日本でもバブル華やかなりし頃は、フリーターという言葉が流行った事もありますが、最近は不景気なのでもて囃されなくなりましたが、しかし時代の変遷と共に、こういう日本特有の雇用のシステムが変って参りました。しかし考えてみれば、永い間勤めるという事は、それ自体が目的ではなく、あく迄も結果なのですね。それは何といっても従業員の皆様が一所懸命、努力された結果である、と同時に会社の方もそれなりに努力された結果である、という事になります。先程、支部長の話にもありましたように、今特に印刷業界は未曾有の技術革新の嵐になっております。他の産業は大体、昭和30年から40年にかけて、技術革新の大波に揉まれまして、石炭産業等のように、すでに消滅した企業もあれば、その他、鉄鋼にしろ、造船にしろ殆んどの産業が大きな波に揉まれて来た訳ですが、一人印刷業は、500年前のグーテンベルグの活版印刷術を、つい最近迄、係わってきたので、技術革新が非常に遅れた業界なのですね、そういう事で現在の印刷業界の未曾有の、且つ急激な技術革新の波に揉まれていまして、この大変革を乗り切るためには、まずやはり、若い人、従業員の方が、腰を据えて、企業のため、且つ自分のために頑張って戴くという事が先決問題になって来る訳でございます。そういう意味で企業にとっては、従業員の方と手を取り合って、この難関を乗り越えていく事が重要になって来ます。たまたま私は組合本部で労務を担当しております。最近労働基準法が変りまして、どんな企業でもあと2年で、週所定労働時間を週40時以内にしようという事になっています。勿論残業は出来る訳ですけれども、法律上はそういう事になっております。この不況の中で時短どころではないという所もあるのですが、しかしやはり長い目でみますと、従業員の皆さんと企業とで協同して、労働環境を改善していく事が不可欠です。

それによって皆さんも又、今日の5年、10年、15年の永年勤続を更に、20年、25年と勤めて戴く事になるのではないかと考えております。兎も角、皆さん健康に呉々も注意して戴きまして、企業の中で頑張ってもらい、そして、その内に20年、30年の表彰を受けられますよう、お祈りしまして、今日のお祝いの言葉と致します。どうも、お目出度うございます。」(拍手)

「次に式次第では矢田区長のご挨拶となっていますが、今日はよんどころのない用で欠席で、代わりに鈴木助役さん、実は司会者として、私は今日の永年勤続のスピーチを戴くには最もふさわしい方だと思うのです。鈴木さんはこの10月1日を以って助役になられたばかりなのです。ピカピカの助役さんですが、鈴木さんは学芸大を出られて今年で40年なのです。恐らく中央区の中でも一番長い勤続の職員なのです。今日は正に見本は鈴木助役と思って、皆さんも頑張って戴きたいと思います。」と鈴木助役が紹介されました。

「本日は永年勤続の表彰を受けられました皆様には心からお慶びを申し上げ、敬意を表したいと思います。只今は過分のご紹介を戴いて少々とまどっていますが、矢田区長から呉々も中央区内の重要な産業である印刷関連産業に営々とご尽力されています経営者の皆様と、本

日の代表的な皆様の御活躍に心から感謝申し上げておくようにとの事でございます。さて私は永い勤続ではありますが実は昭和46年から、6年程、一番長く商工課長をやっていました。

先輩方にご指導戴き乍ら、必死に中小企業対策を勉強し、努力した事を覚えております。

只今支部長さんや篠倉さんから、技術革新や、経営環境の変化等のご説明を久し振りに、本当にしんみりと聞かせて戴きました。私が商工課長を勤めていたのは15年から20年前ですから、もっと若かったのですが、ようやくこういった所へ辿り着いたといった所です。当時はいわゆる人手不足、経済の高度成長期でして、兎に角人を得たいと、取り分け新しい技術に向って、経営者自ら取り組んでいる企業程、優秀な人材が集まってくるという訳で、どうしても大企業が見かけもよいので、優秀な人材が集まるというような時代でした。最近は本人が勤めたくても職がなく、企業が大変厳しくなって来ているわけで、本人が精励して勤めれば済むという時代ではなくなって来ています。これは行政共々、これから真剣に中小企業振興対策を考えて行かねばならないという感じを強くしております。実はこの6月に中央区も中小企業振興に関する基本条例を制定致しました。印刷工業組合が業界としての東京都の縦の業界組織になっています。何と言っても、国や都の産業振興が権限の面でも大変大きい訳ですが、商工融資を始め、従来からの施策を、新しい時代に合せるよう努力して、この振興条例を基に改めて発想を変えて取組まねばならないという事を事務方の一番の責任者として、只今感じている所です。本日はそういう訳で大変懐かしいというか、商工課長以来、このような機会を与えられてお祝いを申し述べる事を光栄に思っております。支部役員の皆様方、又東印工組本部に於かれましても、どうか区に対するご要請もあろうかと思います。共々、区として大事な地域産業、皆様の印刷のために、何らかのお役に立ちたいと考えております事を申し伝え、これからも受彰者の方々のご精励、ご発展、ご活躍と、企業のご繁栄を心から願いまして、大変粗辞でございますが、大役を務めさせて戴きました。本日は皆様、大変お目出度うございました。」（拍手）

続いて中央区工団連会長、平林智司殿が紹介されて次のように祝辞を述べられました。

「只今、ご紹介を頂戴致しました中央区工団連の平林と申します。本日は京橋支部という伝統と栄光の支部から、その支部員の企業の一員として表彰されました皆様には誠におめでとうございます。何故、京橋が伝統と栄光の支部であるかといいますと、京橋という地は、近代印刷発祥の地です、皆様もうご承知だと思いますが、築地警察署のすぐ近くに、活字発祥の地とあり、又、文学的にも、学問的にも、聖路加病院の前にも福沢諭吉の碑等もあり、そういう伝統のあるこの土地に皆様はお勤めになって、しかも優秀であるという事で表彰された事を心からお祝い申し上げます。今篠倉さんからもお話がありましたように、戦後の混乱期にこれから日本がどうなるか判らないという時代があったのですが、ある産業によっては、華ばなしくスタートした戦後の産業でも、やはりその任務を終えてというか、必要なくなったという産業もあるんですが、この印刷は益々降盛を極めておるわけです。この産業に携われた皆さんに対して本当に、心からお祝いを申し上げたいと思います。私も印刷の業界を選んだ一員として、今非常に嬉しく思うというか、幸せだったなあと思っています。私は戦後復員して来て、一体自分は何をやるべきか、どうすればよいか、私達はもう戦争は勝つと思ってましたから、勝ったら外国へ行って、一旗上げようかと思ってました軍人の一人でしたが、敗けてしまって戦後、虚無感に陥っている時にそう思ったのですが、私は土方もやりました。飯場暮らしもやりました。何とか食べて行かなければならないという事ですが、今そういう経験が人生の上で大きく、役立っているのではないかなあと思っています。

しかしそれだけに途中で少し中だるみというか、先程、助役さんが述べられたように、技術革新もあぐらをかいて、発展しなかったのですが、しかし産業がどんどん発達して、これはもう印刷は取り残されるのではないかと、先覚者はもう少し、しっかり確立しなければというので、今はコンピューター技術が発展しつつあると思います。どうか、皆さんもしっかり勉強して戴いて、これからの時代、5年、10年、15年という経験は本当に尊いものです。勿論、自分がそれを糧としてお働き戴くのは勿論ですが、その貴重な経験をこれから後輩育成にどんどん役立てて戴きたいと思います。この印刷業界というものは私が申し上げる迄もなく、素晴しい産業であるという自信を持って戴いて、大いにご活躍戴きたいと思います。お祝いの言葉になったかどうか判りませんが、本当に今日はお目出度うございます。この業界に身を置く一人として心からお祝い申し上げまして私のご挨拶と致します。最後に皆さんもご健康に、何といっても注意して身体が丈夫でなければ、自分の意志も通せませんし、やりたい事も出来ませんので、これからは大いに健康にご注意戴き、益々ご発展される事を願いまして挨拶とさせて戴きます。どうも有難うございました。」(拍手)

続いて受彰された113名を代表して、金山印刷㈱の仲林勝利氏が登壇して、荒川支部長へ謝辞を述べて、表彰式は終り、閉会の言葉として山崎副支部長は次のように述べました。

「本日は皆様、お忙しい所をご参集下さいまして、有難うございました。お礼申し上げます。実は私は今NHKで放送の〝将軍吉宗〟の事についてですが、私も欠かさず見ていますが、日本で印刷が発祥して以降、約400年前に京都と伏見で円光寺というお寺で学校を作りまして、この学校で使った教科書を「円光寺版」と称して円光寺で出版しました。昨年銀座地区の地区会の旅行で京都へ行きました。今は京都の洛北の方へ移ってますが、訪ねました所、400年前の活字でこれがまだ鉛がありませんので、木版でございます。この木版が約4万本残っております。ですからこのお寺を調べれば、我国の印刷業の歴史が相当見直されてくるのではないかと思います。兎に角歴史のある業界でございます。これからも皆さん大いに頑張って印刷業を盛り上げて下さい。ではこれを以ちまして、永年勤続表彰式を終了させて戴きます。どうも有難うございました。」(拍手)

表彰式を約一時間で終了、早速、祝宴となり山口地区長が司会を務め、次のように挨拶しました。「この中で受賞者の方のお顔を拝見しますと、昨日の値上げ反対のデモに、元気よく参加して戴いた方も何人かおられますが、大変に有難うございました。今朝の朝日新聞、東京新聞、毎日新聞の経済欄に大きく載っております。写真が写っています。先程、工団連の平林会長とも大きな新聞に顔が写る事はないのではないかと、話をしていましたが、私達の気持が先方に通じるのではないかなあと思っています。まず皆様にお礼を申し上げます。私は京橋地区から出ています。山口でございます。今地区長と資材委員を務めています。」と自己紹介しました。その後、乾杯の音頭で、東京都印刷工業組合常務理事、小山英美殿が次のように述べられました。「昨日デモに行きまして、声をつぶしました。まずもって受彰されました皆様に心から敬意を表して、感謝の気持ちを込めてお祝い申し上げます。おめでとうございます。今後共、皆さんには健康に充分、留意をされまして、先輩として、職場の中にあって、なくてはならない人として、柱となって御活躍をして戴きたいと思っております。皆様方のご健勝、ご繁栄をお祈り致しまして乾杯を致します。力強いご唱和をお願いします。乾杯！」と大声で発声して賑やかな歓談に移りました。

宴途中で、中央区商工課長、斎藤裕文殿が挨拶を述べた後、工団連の平林会長が得意の浪曲の〝三点セット〟を披露されて拍手をあびていました。そして約一時間に亘り祝宴が続いた後、8時過ぎに十文字副支部長が中締めを行い終了しました。

(岩本)

京橋支部新技術研修会
「各論」の習得目指す
デジタル研修会に100人

東京都印刷工業組合京橋支部（荒川龍治支部長）は、九月六日午後六時から東京・銀座の東急ホテルで技術研修会を開催、青年部の京青会や日本橋支部からも参加者があり、約一〇〇人が集まった。

はじめに荒川支部長が「技術革新が激しさを増し、デジタル化がどこまで進むか不透明である。電子化・デジタル化は、総論については第四次構造改善事業の中で進められており、この技術研修会は各論の部分をやりたいと思い企画した。技術的な事を理解していただき、これから来たるべき時のため備えて欲しい」とあいさつした。

講演は、富士写真フィルム印刷システム部・藤谷尚弘氏が「プリプレスの電子化対応～現状と将来～」をテーマに話した。

藤谷氏は、前段としてDRUPA95とIGAS95の出展傾向について解説し、自身が見たDRUPAの傾向としては①前回のトピックス技術が今回は実用化されていた②ポストスクリプト技術がスタンダード（標準）になった――など五点をあげ、デジタルカメラ、CTP、CTCコンピュータ、オンデマンド印刷機などについて、各社の出展製品をあげながら話した。そのうえで、IGASには各社ともDRUPAの傾向がそのまま流れるであろうと予測、自社の出展予定機器を例にあげてポイントや見通しを解説した。

休憩後の後段の部分では、主たるテーマであるプリプレスの電子化対応についてOHPを使用して話した。

藤谷氏は、印刷業界を取り巻く動向と対策について大まかにふれたあと、日本のプリプレス環境の特徴について①強力な分業体制による工程縦割りの業界構造②特殊な日本語環境からアナログ版下が残らざるを得ない③上流（クライアント・デザイン）でのDTP化の波で、否応なしに受け皿構築が急務――などをあげたほか、フルデジタル化率の推移など数字をあげて解説した。

そして、これらのプリプレスに求められる姿、DTPのメリット・デメリット、生産機としてDTPの課題、DTPを受注する場合の留意点などを細かくあげた。

最後に、石川保夫日本橋支部長が「印刷業は不況だが、やらなくてはならないことがたくさんあるかと思う。こうした研修会に出て迷うばかりだろうが、底の無い不景気はなく、底を打ってはい上がる時に何かの足がかりになるかもしれない。あきらめずに勉強して欲しい」と述べた。

京橋支部では、今回の座学に続き実地での研修会を行い、支部員全体の底上げをしたいと考えている。

（新聞の新聞より）

尚、京橋支部執行部では、年内にもハイデルベルグPMT㈱でプリプレスのデジタル化について勉強する予定です。

地区だより

八丁堀地区

東印工組京橋支部は組合員二二七社であるが、その内八丁堀地区は三八社である。

毎月第三水曜日午後六時より八丁堀四丁目にある区会所で「八丁堀地区会（兼・八親会）を開き、一ヶ月間の印刷組合活動の諸報告、諸資料の配布などをしている。しかし仲間としての親睦を更に深めようと同好会の色々のグループもある。

。毎月一回ゴルフコンペを開くグループ
。年一回一泊バス旅行をするグループ
。年一回二～三泊の国内外旅行をするグループ
……「東京経営技術研究会」の名称。

この親睦グループの紹介として今年六月の二泊三日の旅行記を投稿してみましょう。

6、10　東京発8時30分→彦根城、長浜市内→長浜泊
6、11　渡岸寺、安土城。近江八幡→びわこ♨泊
6、12　石山寺、三井寺、日吉大社→京都→東京

今回は例年より近場の旅行であったので、毎月積み立てていた会費に余裕が出たと、まず旅立つ前に個人〝お小遣い〟として〇〇〇円の袋を渡されてgo!!

〔初日〕

◎**彦根城**は本物の城として有名だが今は修復工事中でシートの中。でも、城内の石、樹木はやはり立派です。

◎**長浜の町**。秀吉が最初にもらった城の町かぐらいの知識でチャーターの大型観光バスで町に入った。まずお城が目に入った。え!!長浜城など残っているはずはないが……。バスガイドが言うにはNHK大河ドラマ「女太閤記」の放映年に町おこしとして急ぎ建築したものとのこと。だからいかにも昭和の城。看板も郷土館でその場所もスポーツ広場の豊公園とのこと。町のメイン道路「北国街道」を散策。するとガラスの店、ビードロの店、オルゴール博物館、が目立ち観光客も多くその附近はにぎやか。信長の鉄砲隊をささえた国友鉄砲の町なので、ふいごの火→ガラス玉の近代産業へとなったと一人の思いこみ、ふとバスガイドにそのことを聞くと、「五～六年前、小樽の町の様にと、観光開発をしたのです」と。これでは歴史の町ではない!!でもその昔は栄えた町並。

◎**安土城の町**

私が知っている二十年前の安土城は苔むした城石だけが残る城跡。観光客などもいない。しかし今は城跡1km程離れた所に広大な駐車場と「信長の館」「安土城考古博物館」。これもNHK大河ドラマ放送後に観光スポットとして県が作ったとのこと。

館の内に天主閣天界の間。金ピカの六角型室。これ東京のデパート(?)で見たことあると思って説明文を読むと、セビリヤ万国博に出品後、この安土に移設。金ピカのフスマをデパートで見ていた。当時として、変ったデザインの城、と世の人には映った。信長の考えも「当時の常識とは全くかけはなれていたし。それについていけない武士も、ふるえる心、手で明日の観光コースとなっている比叡山の寺々…」を焼き、僧を皆殺しにした歴史の町を町の巨樹を見て考えた。この巨樹はそれを見たのかもしれぬ……。

（石澤　勉）

びわこ温泉・ホテル「紅葉」紫式部の黄金像前にて

築地地区旅行記

九月に入ってもまだ〳〵残暑は続いていた。今年五月頃、築地恒例の工場見学旅行会を企画した頃は、まだ先の事と思っていたが、不況の波間を彷徨っているうちに旅行当日が来てしまった。

平成七年九月一日㈮、今回の懇親旅行は、山形の小森印刷機の工場見学と上山温泉一泊の旅である。

参加者は築地十六社中十三社で、約80％の出席率で地区の皆さんに感謝している。

さて、朝九時三十二分発の新幹線、つばさ117号で東京駅から旅の出発が始まるのだが、参加者東京駅集合と云うことで、何の気なしに即八重洲口「銀の鈴」へ集って下さいと皆さんに申し上げた。しかし井の中の蛙と云うべきか、世間知らずの地区長で誠に申し訳無い限りであるが、当の銀の鈴が今迄の処から消えてなくなっており、地下へ移っているとのこと。これは大失敗!!迷う人も出るかと心配したが、無事時間通りに集ってこられ、まず一安心した。

缶ビールで喉を潤し、和気藹々と談笑しているうちに、電車は福島より左に折れて、山間部を縫う様に走って、山形方面へ向って行った。車窓からは緑の山々が鮮やかに映って目に滲みる。ここまで来ると都会の喧騒をはなれたなあと云う感じがする。

目指す、高畠駅に十二時十分到着した。駅に降りたつと、改札口には小森コーポレーション㈱営業部の大杉さんが笑顔で出迎えてくれていた。車で数分、小森マシナリーの大工場へついた。晴れ渡る紺碧の大空の下、約二万坪の広大な敷地、七千坪の雄大な工場ではある。日頃狭い処で息が詰まるような仕事場にいる我々にとっては実に垂涎の感がある。

豊かな自然に囲まれ、恵まれた環境の中で仕事が出来ることは実にもって羨しい限りである。玄関に入れば、事務所の人達が全員立ち上って礼をつくしてくれる――何だか視察に来た大臣になったような感じで、恐縮した。

一階ピロティーに絨毯を敷いたなだらかな階段があり、「工場見学御一行様歓迎」の垂幕が目に入る。二階に上って客間に通され、昼食を御馳走になる。

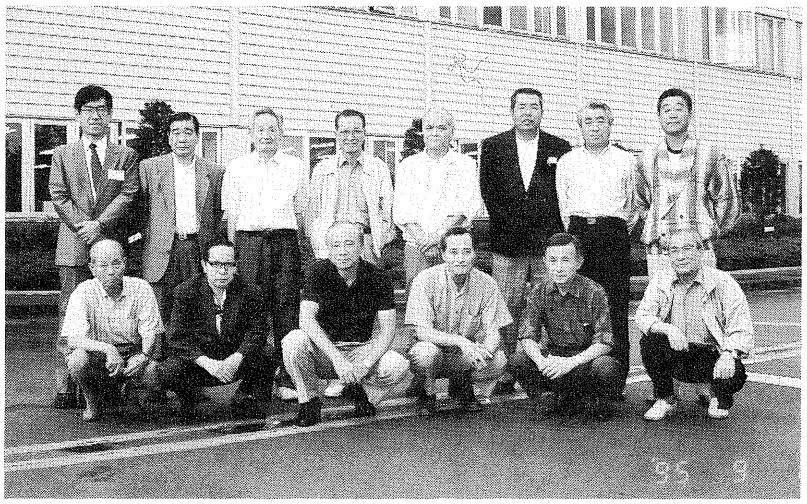
午後一時、常務並びに工場長さんから、歓迎の御挨拶と若干の工場内説明があった。

見学者の証明として作業帽を拝借して工場内に入った。流石に広い工場だ。整然と並べられた小型印刷機の数々、その組立ラインを見学した。

参考資料としていただいたパンフによると、沿革としては、一九七〇年㈱高畠製作所として設立され、小森印刷機械製作所に納入していた。一九七七年小森印刷機一〇〇％出資の子会社となる。一九八四年現地に新社屋と工場を建設し、小森マシナリー㈱に社名も改名。

現在小森グループとして、茨城県取手市と千葉県関宿に印刷機械製造の工場をもつが、ここ小森マシナリーの工場では、主として菊半切以下の小型枚葉印刷機を国内随一のスケールと世界最新鋭の生産システムを完備して、ファクトリーオートメーション工場として稼動している。

広い工場内に、百二十メートル以上の生産ラインがあり、いくつもの印刷機が並べられ組立てられてゆく。次から次へと誕生してゆく新しい機械群を見て、誰が一体これを買うのかと、



余計な心配をしながら見学をした。

小森グループでは年商五〇〇億円と云うことで、その生産の半数以上が世界四十七ヶ国に輸出されているとうかがった。

壮観なる広い工場内は実に良く整理整頓され、いわゆるゴミは勿論、余計な物は一つも見当らない。

工場内の物流の直線化、工場建家の一パック化をして、部門相互の情報伝達の迅速化を図かり、フレキシブルな生産体制の充実と生産性向上を推進しているとの事だった。

ミクロン単位の高精度を要求される印刷機生産のため、数値制御工作機、加工ロボット等を駆使して、FMSと呼ばれる最新鋭の機械加工自動化システムを取り入れ、コンピューターによってそれ等を稼動させ夜間、休日の無人化操業を実現させた。

更に若い人が快適で力の発揮しやすい職場環境をつくり出す努力をしていると云う。

広い工場内をあちこち歩きまわり、若干の疲れを感じながら、見学を終えた。

次に又車で移動、制御版等の電気関係を生産するエレクトロニクス工場へ向う。

細かい作業が主となる工程で、一見訳の解らない程の数多い配線作業が大変な仕事であるが、なるべくオートマティックに自動化せずに、心の籠った手づくりの作業を進めていると云う。社員、九十四名中半数以上が女性であり、工場設立当初より若い女性達が楽しく且つ意欲的に働ける職場づくりが大事と云う事で、腐心されて来ていると聞いた。

工場長がとりわけ強調された事の一つに、改善運動と云うものがある。それはQCサークル活動と云って、グループ別に、定期的に討論、話し合いを行って、技能向上、職場環境の改善、各種文化活動の育成を推進出来るように皆で努力しようと云うことで、配線の作業等も独自の工程を開発しているとのことであった。

午後三時半、全ての工場見学が終了した。御丁重なお見送りの真心を背にしてJR、高畠駅へ向った。

今日東京から来てこの高畠駅に降り立った時はさほど気にとめなかったが、外からあらためて駅舎を見ると、長閑な山村地帯にひときわ目立つ佇まいに目を見張った。まるで、御伽の国の城のような、メルヘンチックな感じの駅舎である。改札右手には暖簾が掛っていて、温泉浴場も備えている。山形新幹線が開通すると云うことで、この沿線の各駅が、従来の古い駅舎を改築して近代的な瀟洒な建物に建替えたと云うことだった。高畠駅から上山温泉駅に向う車中からも、それぞれの駅が旅のロマンを誘うような、それぞれのいでたちが目に映った。

夕刻、五時半、上山温泉駅下車、上山市葉山地区の旅館へ向う。今日は工場見学でたっぷり歩いたので、旅の疲れを癒すべく早速、湯につかる。夜は山菜と山形牛の肉料理に舌鼓をうち、地酒と共に、歌あり、踊りありで二時間半の宴が続いた。

明けて二日目、朝九時に観光バスが来て、車中の人となる。午前中は蔵王山に登り、いわゆるお釜見物である。

実に間断無く、よーく喋るベテランガイド嬢で、色々な話題を織り混ぜて、マイクロホンの休む暇がない――「こちらでは、曲ると云うことを『ムズル』と申します」とか山形弁の話し方教室を聞きながらバスに揺られて、山あいの道路をゆく。山々の緑が目に痛い程で、沿道にはススキ、萩、桔梗と云った秋の七草が群生している。山頂に近づくに従って木や草花がなくなって、石と土の茶色の世界に変ってゆく。麓の方で晴天でも、山頂では天気が変り易すく、晴天に恵まれることはまれであると云う。

幸にも山頂では晴天であった。日頃の行いがおよろしいようでとか、ガイド嬢に煽てられ、蔵王山頂に降り立った。荒涼たる原野のまさに茶褐色の世界で、山肌が陽に照らされて白く反射している。冷めたい風が吹いて、寒い位の気温である。

蔵王山は、屏風岳、熊野岳、五色岳、雁戸山、地蔵岳と云った山々が連なっている。我々が居る山頂は、刈田岳と云う山だとか、少し下を見れば五色岳との境目と思われるところに噴火口の跡であろうか、湖が目に入る。それはまるで、バスクリーンを入れた浴槽のような色をしてエメラルドグリーンに輝いている。爽やかな風を受けながら四方を見渡せば、山又山の大パノラマである。関東の方角には、会津磐梯山を擁す吾妻山連峰がうっすらと見える。右へ視界を移せば、磐梯朝日国定公園の山派、その又右へ目

をやれば、月山や、出羽三山が臨まれるところ、その日は雲や霞がかゝってよく見えない。

若い頃、学友が高原植物、コマクサの花を求めて蔵王連峰を縦走したと云う話を聞かされたことを想い出しながら、大自然界に浮かぶ山々を眺めた。筆者は小児の頃は信州の山間部の村で少年期を過したので、とりわけ山の景色、山の空気の味は堪えられない。少年期は悪夢の終戦前後で山里で暮したことは、良い想い出ばかりではないが、今では、懐かしさの方が多く、ノスタルジアに駆られる。ともかくも三十分位の短い時間であったが、夢の郷愁にひたることが出来た。

蔵王エコーラインを滑るように降り下ってバスは、山形市内に戻った。

昼食を市内の焼肉やさんでとることになっていた。店のマスターが、「今日は、滅多にお目にかかれない最高の肉が入荷しておりますので、御期待下さい」と云って我々一行を迎えてくれた。その言に違わず、一同「これはうまい!!」と口をそろえて連発して山形牛の味を充分に堪能した。

午後は、観光果樹園によって、ぶどう狩りを楽しみ、やや早目の電車で帰路についた。午後六時、無事東京駅到着で散会となった。

二十一世紀もすぐそこまでと云う時代に入った。印刷界は、月々日々、エレクトロニクス化、デジタル化が進んでいる。それは本格的な高度情報化時代の到来であり、情報化社会の一翼を担う印刷業は更に、激しく変化してゆくことだろう。ハイオクティな印刷システムが生産されるなかで、如何に印刷機器のメカトロ化、印刷工場のFA化に対処してゆくか、その為に、惰性を打ち破り新しい時代の波に果敢に挑戦するときなのかもしれない。

しかし、その反面忘れてならない重要な視点があることを見過してはならないと思う。

それは、人間社会にある限り、如何に機械化が発達しようとも、人間としての心のあり様が変ることは無いと云うことである。即ち文明の発達がより商業至上主義をエスカレートする傾向のなかで、エゴイズムから乗り越えて人間性豊かな産業社会の構築を力を入れなければならない。そうでなければ真の豊かさを実証すべき、輝ける二十一世紀の到来にはならないと思う。

（春原記）

支部の動き

9月6日㈬京橋支部技術研修会、（18時～20時）、於・銀座東急ホテル、会費2千円

9月7日㈭本部支部長会、（15時～17時）、於・印刷会館4階、荒川支部長出席

9月13日㈬部長・監査・地区長会、（11時～14時）、於・支部室

1、本部事業推進について協議事項

。組織・総務関連―全印工連・全国大会、

。構造改善・教育関連―「プリントズーム」購読料取りまとめについて、京橋36社各種講座・研修会の開催について

。労務・厚生関連―「後継候補者育成セミナー」の開催結果、33名参加

「第29回敬老の集い」開催、107名参加、全印工連設備共済制度の導入、担当代理店、共立㈱、11月1日補償開始、募集中

。「プリンテック'96東京」の開催について

。都立職業技術専門校の求職情報かわら版

2、当面する支部事業について

。永年勤続従業員表彰式―10月6日㈮18時於・中央会館、5年、10年、15年の113名

。各種委員会報告

9月14日㈭全印工連全国大会、（13時～14時）於・全日空ホテル

9月20日㈬本部敬老の集い、（10時30分～14時）、於・明治神宮参集殿、京橋支部7名参加

9月21日㈭緊急常任・支部長合同会議、（12時30分～15時）、於・京橋会館7階

9月27日㈬中央区工団連産業文化展準備会、（10時30分～12時）、於・中央区役所8階

9月28日㈭緊急部長・監査・地区長会（12時～14時）、於・支部室

1、本部事業推進について協議事項

。新加入組合員の仮承認について、加入8社、脱退18社、現在組合員数二七二五社

。用紙価格値上げ問題についての対応

用紙価格値上げ友対決起大会、10／5

。「プリンテック'96東京」の開催について

。雇用促進事業団による助成事業への指定団体申請について

2、当面する支部事業について

。永年勤続従業員表彰式、10／6、113名
。次期役員推薦委員会、11／13日12時
。次回地区長会、11月16日㈭18時
。顧問・相談役・参与の会、12月1日17時
。新年臨時総会、2月2日㈮築地スエヒロ
。各種委員会報告

10月5日㈭印刷用紙値上げ反対決起大会、（13時30分～15時）於・日比谷公園～東京駅迄デモ行進、京橋支部130人参加

10月6日㈮永年勤続従業員表彰式（18時～20時）、於・中央会館7階
。式次第
司会　中島副支部長
開会の辞　石井副支部長
挨拶　荒川支部長
表彰　5年・10年・15年勤続代表
来賓挨拶
東京都印刷工業組合常務理事篠倉正信殿
中央区助役　鈴木郁夫殿
中央区工団連会長　平林智司殿
謝辞　仲林勝利殿
閉会の辞　金山印刷㈱　山崎副支部長
祝宴
乾杯　東京都印刷工業組合常務理事　小山英美殿
中締　十文字副支部長

10月17日㈫京橋電気安全協会（11時30分～12時30分）、於・築地スエヒロ、岩本代理出席

10月26日㈭中央区公聴会、（14時～16時）、於。中央区役所、十文字副支部長出席

11月2日㈭本部支部長会、（13時30分～16時）於・印刷会館4階、荒川支部長出席

11月3日㈮中央区各種功労者表彰式、（10時～13時）於・中央会館、㈱久栄社　田畠一弥殿、中央区中小企業発達功労者賞を受賞。

11月13日㈪次期役員推薦委員会、（12時～14時）、於・支部室、石澤・小宮山各顧問、小薬・神林各相談役、田畠副理事長、小山・篠倉各常務理事、荒川支部長、中島副支部長、山内地区長以上10名

11月16日㈭本部理事会、（15時～17時）於・印刷健保会館、各理事出席

11月16日㈭部長・監査・地区長会、（18時～20時）、於・築地玉寿司、会費1万円
1、本部事業推進についての協議事項
。「印刷用紙値上げ反対決起大会・デモ行進」の総括、参加者1千500名、費用300万円
。組織・総務関連―「組合ガイド」の改訂、「組合員名簿」の作成
「新春の集い」の開催、1月12日㈮新高輪プリンスホテル、17時30分
。構造改善・教育関連―「プリントズーム」購読料の取纏めについて、構造改善調査の実施、11月10日締切、各種研修会
。厚生関連―「永年勤続従業員表彰式」の開催、11月10日㈮、9時30分、明治座

11月28日㈫ハイデルベルグPMT㈱見学会、（13時～17時）、於・同工場ショールーム

12月1日㈮顧問・相談役・参与の会、（17時～20時）、於・躍金楼、会費一万3千円

12月7日㈭本部支部長会、（15時～17時）、於・印刷会館4階

12月28日㈭支部事務局御用納め

支部員の異動

加入組合員（11月
。㈱ユニット　プランニング・岩間家富氏、入船1―7―10（信濃ビル・入船地区）

お悔やみ申し上げます

▼新川地区、昌平堂印刷㈱前社長、伊森善之殿御逝去（7月）

編集後記

菊花薫る一年でも落着いた雰囲気の十一月にも拘らず、政治・経済面では、相変らず問題の多い昨今ですが、特に米国に於る、大和銀行問題は、一歩間違えると我国金融業界の恐慌にも発展しかねない問題で、〝住専〟の不良債権処理ともからんで、世界が注目しています。我が印刷業界も、不況と用紙の値上げが重って採算割れを起しかねない状況となっています。国内産業の空洞化と企業内電子化の進行で、益々、印刷需要の低迷が数年続くと予想されます。各自〝需要の創造〟が肝要となる時代で、営業面での人材教育・補強が大事ではないでしょうか。「京橋の印刷」も第93号となりました。長い間、支部の皆様方のあたたかい御支援とご寄稿を感謝申し上げます。（岩本）